

## 会 議 要 旨

会議の名称	川越市立川越高等学校教育審議会第2回会議
開催日時	平成27年7月17日(金) 午後6時00分 開会 ・ 午後8時00分 閉会
開催場所	川越市立川越高等学校中会議室
議長(委員長・会長)氏名	会長 遠藤 克弥
出席者(委員)氏名(人数)	副会長 西澤 寛 石井 成人、伊藤 幾造、大竹 秀明、新保 正俊、土田 賢省、 永瀬 慎二、永松 靖典(8人)
欠席者(委員)氏名(人数)	齋藤 清隆、澤田 隆、笛木 正司 (3人)
事務局職員等職氏名	学校教育部 参事 山本 康義 学校管理課 参事兼課長 中野 浩義、副参事 内山 久仁夫 指導主事 栗田 大悟、指導主事 杉田 和彦 市立川越高等学校 校長 関 俊秀、参事兼事務長 大嶋 美紀夫、 教頭 中村 光一
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 議事               <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 第1回会議の概要報告</li> <li>(2) 協議事項                   <ol style="list-style-type: none"> <li>生徒定員変更の検証</li> <li>市立川越高等学校における理念及び基本方針等</li> <li>その他</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>3 連絡・報告</li> <li>4 閉会</li> </ol>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 川越市立川越高等学校教育審議会第2回会議 次第</li> <li>・ 川越市立川越高等学校教育審議会 委員名簿</li> <li>・ 第1回会議要旨</li> <li>・ 川越市立川越高等学校教育審議会第2回会議 会議資料</li> </ul>

## 議 事 の 経 過

### 1 開会

### 2 議事

#### (1) 第1回会議の概要報告

第1回会議の概要について、事務局から資料に基づき説明が行われた。  
協議の結果、原案どおりの内容で市のホームページで公開することについて承認された。

#### (2) 協議事項

生徒定員変更の検証

市立川越高等学校における理念及び基本方針等  
について、事務局から資料に基づき説明が行われた。  
上記の 、 に関連して次のような意見等が示された。

#### 【意見等の概要】 ( : 委員、・ : 事務局)

生徒定員変更の検証

地域特別選抜は、進学・部活動のどちらに実績を残しているのか。

- ・ 目的意識の高い市内の生徒が入学し、勉強だけでなく様々な学校行事等において学校の核となって活躍し、個人というよりは学校全体の活性化のベースとなっている。

グローバル化が進展している中で、果たして今の状況に満足するのか。英語に力を入れていく、併せて募集定員と学科の再編の検討も視野に入れていく必要があるのではないか。

教員が予備校で研修するというのをやっているが、果たしてそれでよいのか。予備校でテクニックを学ばせることも必要だが、アクティブ・ラーニングへの対応も含め、本来の教育課程を改めることも必要。

全体的に商業の志望倍率が上がっていない。10月1日の希望倍率を見ると普通科が非常に高く、商業科、特に国際経済科については厳しい状況が出ている。長期的スパンで見えていかないといけない。

「私は授業に意欲的・積極的に取り組んだ」と「チャイムが鳴ったらノート、教科書を広げ授業の準備をしている」の数字は70%台。4分の1の生徒はそうっていない。授業の改善が必要。

普通科と商業科がバランスよく配置されている学校だ。将来的には普通科の希望者が増えていくと思うので、これをどう考えるか。実際に仕事に就きたいという希望も大事にしていきたい。

生徒定員の変更で客観的に目指すところは何の値か。進学を増やすのか。就職率をよくするのか。全体的にこの高校の色をはっきり出していくのか。いい結果であるが、何を評価するのが分からなかった。

- ・ 市立高校が何を指すのかということを確認することによって、どこまで至ったのかが見えるのではないかと、この審議会が始まっている。進学は、難関大学も含め、定員が増えている分だけしっかり増えている。また、希望倍率と出願倍率は経年で見ていって、現在のところ、順調に推移している。

商業の希望が減っているが、今後も減っていくものか。将来的視点で商業科をどうするのか。数字を見ると変えるところがないので、批判的なところでポイントを拾っていかないと将来像は見えない。

中学校では市立高校について、部活動より普通科で大学進学を考えている生徒が多い。この学校が将来、部活動でいくのか、ニーズを考えて普通科を充実させていくのか。グローバル化への対応も重要。

どこの学校でも子どもが少なくなってくる。特色を持った学校をつくる必要がある。スポーツで生きるのか学力で生きるのかということをはっきりとしておいた方がよい。特色ある学科がほしい。

進学実績では、入学時の大学進学希望と卒業時にその希望がどうであったかという比較検討がなされているかが重要。また、授業に意欲的に積極的に取り組んでいる生徒というのが、家庭学習を積極的にやっている子ほど授業に意欲的に取り組んでいる、という分析ができるかどうか。授業に積極的に取り組ませるための教員の働きかけが分かるか、その働きかけによって生徒が授業に積極的に取り組むというサイクルになっているか、そのような分析が重要。

教員には生徒の個性を見抜いていただいて、学校目標にある「個性を伸ばす」というところをどんどんやっていっていただきたい。また、国際経済科は他の学科よりも手厚く英語を勉強するというのがよい。

将来どうするのか。これから変わっていくのか、このままでいくのか。何とな

く特色がない。「客を呼ぶような商品」という視点が大切。少子化の波が来たときに「あのとき変えておけばよかった」では遅い。

県内商業科全体の募集人数が今後も変わらないとすれば、商業科の特色化が必要。県立の外国語科と同程度の外国語の力があり、なおかつ商業科としての力も付くということになれば、差別化ができる。

高校が終わってから考える時間を持つとするので、大学等に行く傾向が強くなっている。大学生の3分の1は就職しないという中で、高校から現実感を持って就職を考えさせる教育はすばらしい。

大学を卒業しても4年間一生懸命真面目に勉強してくるような人はうちの会社には来ない。4年間居ただけの人なら即戦力の高校生のほうがいい。中でも工業の卒業生はそれなりに仕事に興味を持って来る。

英語を勉強するのは早いほうがいい。川越は今観光客が増えていて、外国人がたくさん来ておりチャンスだ。また東京国際大学の学生との国際コミュニケーションなどを国際経済科の柱の一つとしたい。

今はみな携帯電話やスマートフォンを持っているが、それを使って仕事になっていることがたくさんある。情報処理科も、情報処理だけでなくプログラミングの部分をもっと取り入れて伸ばしていくとよい。

TOEICを国際経済科の生徒に受けさせる。最初は低くても何回受けてもいいのだから、全員がTOEICを受けて何点とるか。就職試験や進学の原因としても、一つの着目点として進めてもよい。

生徒の定員数の今後の行く方向は決まっている。普通科を増やして、情報処理科と国際経済科を合体させることでやっていくのか。少なくともどこかで特徴のある商業を残すのではないか。

就職は女子が多い。地元や近場で就職したい女子は、商業科へ来れば安定して就職できるという特徴があるのではないか。今後は普通科を増やして、普通科で進学を増やしていくという方向になっている。

我々の時代には、川高か松高か所高か川商で、川商なら、まだ商売も就職もできる。何だったら大学も行ける。松山や所沢は遠いから川商へ進学したという事実もある。学科ごとの男女比の資料が必要。

- ・ 男女の比率については、大きく言えば、男：女 = 1：2 の割合でどの学科もきている。ここ1、2年同じような状況。就職は圧倒的に女子のほうが多い。

本校の全体の傾向として、女子が多く、男子が少ない。子どもが少なくなると学校は苦しくなる。かつて高校は最終地点だったが、今は通過地点。学校の存在意義を考えると、教育課程を変えることも必要。

普通科指向が高いのは全県的な傾向。理由は進学。今後は国際経済科も情報処理科も、進学ができるという点をアピールすることが重要。普通科指向だから普通科にするという発想では、差別化は困難。

市立川越高等学校における理念及び基本方針等

普通科ばかりでは特色がなくなってしまう。商業があって、国際的な人を育てるのがよい。商業の面白さを伝え、後継者を発掘し、市の商業を発展させていくということが重要。

ITを活用した電子商取引か何か、青年会議所かどこかのグループが市から資金を貰ってあちこちに紹介しているようだが、そういうものを活用してというのも一つの方法かと考える。

インターネットを使った商売をできる人たちを育てる学校であってもよいと思う。そうすれば、英語が話せなければならない。今は、国内だけではなくて、海外から持ってくる商売もある。

観光立国という施策も考えられるし、オリンピックという後押しもあって、学校がそういう波に乗って、先に行けるかどうかという、そういう特色もあるのではないか。

目的を持った生徒を育てることが重要。私のイメージは起業家。本校の元々の発足は、地元商店の2代目や3代目を育成しようとしたもの。自分で自立して何かやっ行ってこうという部分が大事。

商業系を今後維持し発展させて行くにはどういう学科にするのか。2つある商業系の学科を一つにして名前を別なものにしてもよい。カリキュラムを特別なものにして、高校生が観光地で商売をやるのもよい。

女子の就職には英語が重要。長野県の清泉女子学院高校が、バスの中で英語を

聞かせるということをやっている。できれば川越市でも、余暇の時間にも、そういうものを勉強していただきたい。

本校は女子が多いままでいいのか。それでよいなら、もっと女子が就職しやすい、大学も行きやすい、という視点が重要。また、元女子高で共学化した私学があるが、なぜ共学なのか。情報の収集が必要。

「今年の努力点」で国際経済科は「ビジネス活動に係る経済や経営に関する知識を身に付けさせる。英会話の習得と国際交流能力の育成を図る」とあるが、教育課程には反映されていない。教育課程の改善を考えているか。

- ・ カリキュラムに関しては、学習指導要領が変わって、ようやく完成期になったところ。色々な部分で弱みが見受けられる。今指摘をいただいたところも含めて、早急に取り組みたい。

学校の理念や方針を考えたときに、社会の変化に対応できる、あるいは社会の変化に対応して地域の社会をリードできる、といったものを組み込んで行けると、学校の「先」を考えると役に立つ。

基本方針や理念というのは大きく変えることはできないと思うが、その中身としてどう実践して行くのかということが課題。

今までの改革については「概ね良好」という総合的な検証があるが、そこで留まってしまうとその先に行かない。創立100周年を見据えた長期的ビジョンをここで議論してつくり上げていくことが必要。

### 3 連絡・報告

第3回は8月25日(火)の午後3時から市立川越高校で開催する。

### 4 閉会